

子ども達をインフルエンザ脳症から守ろう！！

インフルエンザ脳症は、主に6歳以下のお子さんがインフルエンザにかかったことをきっかけにして生じる脳症です。

通常の季節性インフルエンザで、1年間に100～300人(全国)がこの病気にかかっています。
新型インフルエンザに感染してインフルエンザ脳症にかかるのは、これまでの季節性インフルエンザに比べて、年齢が7～9歳とやや高い事、発熱してから重症化する時間が更に短い傾向にあると言われていますが、まだ、詳しいことはわかっていません。

インフルエンザ脳症の特徴

- 1 インフルエンザの流行の規模が大きいほど多発します。
- 2 主に6歳以下の小さなお子さんが発症し、インフルエンザの発熱から数時間から一日と神経症状が出るまでの期間が短い。
- 3 主な症状は、けいれん、意味不明な言動、急速に進行する意識障害です。
- 4 死亡率は約30%と高く、後遺症も約25%の子どもさんにみられます。



インフルエンザ脳症の症状

インフルエンザ脳症でよくみられる症状は、けいれん・意識障害・異常行動です。
発熱に続いてけいれん、意識障害、異常行動が起きたときは脳症のはじまりの可能性もあります。

けいれん: 筋肉のこわばりやガクガクとした動き

意識障害: なんとなくボーッとしている、すぐにウトウトする、呼びかけに反応しないなど

異常行動: ふだんとはちがうおかしい言動

インフルエンザ脳炎・脳症にみられた異常な言動(インフルエンザ・脳症の会)

このような症状がみられたら、医療機関を受診をしましょう



- 1 両親が分らない、いない人をいると言う。(人を正しく認識できない)
- 2 自分の手をかむ、何でも口に入れてしまう。
- 3 アニメキャラクター、ライオン等が見えるなど、幻視、幻覚を訴える。
- 4 おびえる、こわいの訴えやその表情
- 5 急に怒り出す、泣き出す、大声で歌いだす。

*このような症状は、熱が上がってから直ぐに出現することが多くみられます。

***解熱剤の使用には注意が必要です。**

強い解熱剤(ボルタレン、ポンタール等と同じ成分の入っているもの)はインフルエンザを悪化させるため、これらの薬が手元にあっても使用しないでください。必ず、かかりつけ医に相談してください。

子どもの急な病気に困ったら

～ケガや急病で病院に行ったほうがよいか、判断に迷ったとき～

短縮ダイヤル # 8000番 または 077-524-7856

平日および土曜日

午後6時～翌朝8時

日曜日、祝日、年末年始

午前9時～翌朝8時

